

令和6年度第1回城陽市地域公共交通会議 会議録

1. 日時 令和7年(2025年)2月19日(水) 14時00分～15時40分

2. 場所 城陽市役所 西庁舎4階 401・402会議室

3. 出席者

《委員》

土井委員、宇野委員、谷内委員、石川委員、大江委員、杉本委員、中道委員、  
三宅委員、中野委員、松永委員、加藤委員、生駒委員、森島委員、森本委員  
〔出席14人、欠席2人〕

《市側》

村田副市長

(都市整備部) 立木次長兼都市政策課長

(都市政策課) 友本課長補佐兼開発指導係長、山本課長補佐、  
的場交通政策係長、市瀬主事

《傍聴人》

谷口 正博 (洛タイ新報)、八幡 一男 (京都新聞)

4. 議事概要

- (1) 会長・副会長の互選について (協議事項)
- (2) 城陽さんさんバス・青谷方面乗合タクシーの利用状況について (報告)
- (3) 公共交通の利用促進の取り組みについて (報告)
  - ①学校MM (モビリティ・マネジメント) の実施について
  - ②プロモーション活動 (アル・プラザ城陽) について
- (4) 青谷方面乗合タクシーの運行計画変更について (協議事項)
- (5) 地域公共交通計画の策定期間について (報告)
- (6) その他

## 1. 開会

## 2. 市代表あいさつ

村田副市長

## 3. 議題（1）会長・副会長の互選について

### 【会長・副会長の互選】

- ・ 委員より、会長には土井委員、副会長には宇野委員が適任との意見があり、他の委員からも異議等なく、決定。

### 【会長から就任にあたってのあいさつ】

ただいま、会長の大任を委ねられることになりました。皆さんと一緒に城陽市のこれからの交通のことを考えていきたい。特に公共交通については、これからの数年で状況は大きく変わるのではないかと思う。人口減少やドライバー不足の話もあるが、市民が移動しやすい環境をどう作っていくかが今後数年間は非常に重要になってくると思うので、この会議で皆さんと議論し、市民が使いやすい交通、城陽市に来られる人にとっても使いやすい交通環境を整えていくため、是非、積極的な発言と参加をいただければありがたい。

### 【副会長から就任にあたってのあいさつ】

新名神高速道路が完成すると、車の利用は非常に便利になる。まちづくりの観点からいうと高速道路は必要な施設だと思うが、一方で公共交通でもまち中を自由に移動できるという環境をいかに整えるかが重要になるだろう。特に、最近では大久保バイパス沿いに色々な施設が立地してきている様子も伺えるので、そういったところにも公共交通サービスが行き届けば良いと考える。会長をお助けしながら、多少なりとも役に立てればと考えている。どうぞ、よろしく願いいたします。

#### 4. 議題（2）城陽さんさんバス・青谷方面乗合タクシーの利用状況について（報告）

【都市政策課 友本課長補佐による説明】

【質疑応答】

<委員の質疑、意見 = ①②・・・>

<市や他の委員の回答 = ■ >

<会長による補足等 = (会長) >

(会長)

城陽さんさんバスはよく頑張っていると感じる。コロナにより利用者数は一旦落ち込んだが、U字回復しており、この勢いがあれば皆さん安定して使っていただける状況なのかなと思う。一方、青谷方面乗合タクシーについては、利用されている方がかなり固定されているところがあり、そういった利用者が体調を悪くして入院などされると一気に利用者数が減ってしまう。そのような状況が結果に反映されているのだと思うが、令和6年9月・10月あたりで利用者数が少し増加しているのは、先ほど説明のあったように、スーパーでチラシを置かせてもらったことや、若い人に口コミで情報が伝わった結果なのだと思う。このように、今まで関係ないと思っていた人が、他人事ではなく自分事と捉えてもらえるようなアピールの仕方を地域の人を中心となってやっていければ、若い人達にも利用してもらえて運行継続に繋がる。残すことが目的というより、地域の人達に利用してもらうことが目的なので、その辺りは引き続き様子を見ていきたい。

副会長

①コロナの影響も少し和らぎ、城陽さんさんバスの利用者数がコロナ前の水準に戻ってきていることは非常に喜ばしいことである。城陽市もおそらく人口減少局面に入っていると思うので、資料3ページの利用状況の表に人口推移を併せて掲載していただくと、人口は減っているが利用は伸びてきていることが分かりやすく見えるのではないかと、また、市民1人あたり利用率なども上がっている可能性がある。可能であれば、65歳以上の高齢者の人口と利用状況を併せて見てみると、どのような利用者が多いのかということも見えてくると思うので、どこかの機会で教えていただきたい。次に、資料4ページの青谷方面乗合タクシーについて、次年度も運行継続ということをお願いしたいと思うが、事務局の説明でもあったように1人が亡くなると大きく影響

を受けるということは、言い換えれば1人新たな利用者を獲得できれば利用率が上がるということである。努力をした結果が見えやすく、影響が表れやすいと思われるので、是非取り組みを継続していただければと思う。また、2、3箇年分の利用状況を横に並べることで季節変動が見えたり、曜日別で利用者数に違いがあるかどうかを分析することで、今後のサービス見直しにも活用できると思うので、お願いしたい。

■まず、城陽さんさんバスについては、報告させていただいたとおり順調に回復しており、更に利用していただけるよう取り組んでいきたい。青谷方面乗合タクシーについては、運転手や実際に利用されている方に車内でお話を伺ったところ、高齢の利用者が多いことから、いつも利用されていた方が亡くなられることや入院されることもあるとのことであった。ただ、新規の利用者も少なからずおられ、山城青谷駅前の商業施設でチラシ配布を行ったことによる効果があったのではないかと考えている。資料については、より見やすくなるよう検討させていただく。

(会長)

季節変動や曜日変動などについては気になるところなので、データを用意していただけるとありがたい。

委員

②青谷方面乗合タクシーの運行継続判断基準である1便あたり平均利用者数2.7人以上という数字は、どのような根拠で設定されたものか。また、利用状況の周知や利用啓発の際は、この2.7人という数字も出して、意識していただくような形でされているのか。

■当初、青谷方面乗合タクシーの運行をスタートした時は運賃150円だったが、これは城陽さんさんバスの運賃と合わせており、城陽さんさんバスの運賃改定を実施した際に青谷方面乗合タクシーも同じく運賃改定し、現在の200円としたところである。運行継続判断基準の数字については、城陽さんさんバスの路線沿線人口と城陽市役所まで利用される人数を青谷方面乗合タクシーの路線沿線人口で割り返し、当初1便あたり平均利用者数を3.0人以上として設定した。その後、200円への運賃改定を行った際に、金額を割り返して現行の2.7人としている。1便あたり平均利用者数2.7人以上という数字については、毎月、自治会回覧で利用状況をお知らせし

ている中で記載している。

#### 委員

■先ほど、副会長から城陽さんさんバスの乗降客数推移の資料に市の人口も記載したほうが見やすいのではないかというご意見をいただいたが、あくまで参考であるが、2月1日現在、7万2千人を切っており、かなり減少してきているところである。年間700人前後の人口が減少している傾向であることから、そのような状況の中でも、城陽さんさんバスは口コミや乗ってみると便利ということで、乗車していただける方が増加していることが分かるのではないかと考えている。

#### (会長)

人口あたりの利用者数を出すと良いかもしれない。年間700人の人口減少という点は気になるところである。できるだけ定住していただけるようなまちにしていきたい。

#### 委員

③城陽さんさんバスの利用者がコロナ禍前の水準に戻りつつあることは本当に良かった。一方、青谷方面乗合タクシーは基準をギリギリで満たしたということで、次年度の運行では基準を下回らないだろうかと不安に思うところではあるが、市でも色々対策をしていただいております、とても良い取り組みだと思っている。他の事例でも、知り合いからの「便利だよ」や「一緒に乗ろう」という口コミが利用に繋がりやすいということを聞いており、自治会の呼び掛けは非常に効果的だろうと先ほどの報告を聞いて思った。おそらく、冬場は寒さによって、夏場は熱中症が危険ということで外出を控える方が多いのではないかと思うが、去年の4月・5月の利用者数が少ないことが気になるところであり、この時期はイベントなどが多いので、そういった楽しい行事に合わせて利用を呼び掛けてみてはどうか。毎月、利用状況を回覧でお伝えしているとのことなので、危機感を持って、なおかつ乗るとすごく便利で楽しいということが伝わると良いと思う。

#### 副会長

④先ほどの人口について、年間約700人減少しているとのことだが、その内訳として、自然減と社会減のどちらの影響が大きいのかという点も気になるところであり、

特に問題となるのは社会減である。城陽市から他に流出しているということになるので、分かるのであればまた教えていただきたい。また、他自治体から流入されてきた方に対して、新たに住民登録される際に公共交通の利用をPRしても良いと思うので、そういった観点でも見ていただければと思う。

## 5. 議題（3）公共交通の利用促進の取り組みについて（報告）

### ①学校MM（モビリティ・マネジメント）の実施について

【都市政策課 市瀬主事による説明】

【質疑応答】

<委員の質疑、意見 = ①②・・・ >

<市や他の委員の回答 = ■ >

<会長による補足等 = (会長) >

委員

①アンケートの結果からも良い取り組みだと思う。ただ、アンケート結果については、事実に基づいて記載したほうが良いと感じる。例えば、資料15ページの「城陽さんさんバス路線図・時刻表を家族と見ましたか」という質問に対する回答から、「家族と話し合うきっかけづくりとなったことが伺える」とされているが、グラフからそこまで読み取るのは少し書き過ぎではないかと思う。「家族と見た」という事実自体が重要なので、「そこから繋がっていくことが期待できる」程度の記載にしたほうが良いのではないかと。

副会長

②難しいかもしれないが、これまで10回の実績があるとのことから、本来、公共交通の利用に目を向けてもらい、家族や児童だった人たちが使ってくれるということが望ましいと思われるので、今後城陽さんさんバスの利用者にアンケートをとる機会があれば、以前このようなMMの取り組みを学校で受けたことがあるかという追跡調査のようなものがないかを感じた。

また、運転手を増やそうということも狙いの一つだと思うので、運転席に少しでも座ってもらう体験なども、一般車より色々な装置があつて機械好きの男の子には堪らないのではないかと。機械に触れられると困る部分もあり難しいとは思いますが、子ど

もの頃に少しでも触れることによって、バスを好きになってくれる可能性があると思うので、検討いただければありがたい。

(会長)

バス事業者からも何か意見はないか。

委員

③この学校MMは、非常に良い取り組みだと思っている。私が小さい頃は、自家用車が無かったので日常的に親とバスや電車に乗っており、自然と公共交通の乗り方を覚えたが、自家用車が普及する中、家の車で移動される方はバスや電車の乗り方を誰からも教わらない。今後も継続して城陽市とバス事業者で協力し、事業を実施していければ良いと考えている。なお、これまでバスの現役運転手に来てもらっていたが、運転手の確保が困難になっており、2種免許を所有する事務員で対応している。

(会長)

いつも、ご協力・ご提供いただきありがとうございます。今回、アンケート結果を示していただき、継続的に実施していくことで改善点も見えてきて、より良いものになっていくと感じた。ドライバー不足の件については、あるバス会社で新規採用のドライバーになぜバスドライバーになりたいと思ったのか尋ねると、7割から8割ほどの人は「子どもの頃からの憧れの仕事でした」と答えた。つまり、バスの乗り方教室などは本当に大事な機会であり、先ほど話のあった運転席に座ってもらうことや、大きなハンドルを握って世界が変わるなど、強烈な印象が残るようなことをうまく組み込み、体験してもらうことが、将来のドライバーを育てていく大きなヒントになるのではないかなと思うので、引き続き、色々なプログラムを考えていただければありがたい。

委員

④京都市内の小学校において、似たようなMMの取り組みをされたところに伺ったことがあるが、運転席に座った際、車の前にもしゃがんでもらい、運転席から見えない死角になる部分が多いということを伝えていた。城陽市は、通学路などでも狭い道が多いと思うので、子どもたちに気をつけてもらうという意味でもプログラムに入れてみてはどうか。

(会長)

多くの意見をいただいたので、次回の実施時に参考にしていただけるとありがたい。今回も少し時間をおいてから実施後アンケートをされているが、どのような効果があったか、親の反応など、また報告していただきたい。親が子どもから公共交通利用を促されているようなことがあれば、こうしたプログラムについてもやりがいのあるものになるので、できる範囲で取り組んでいただけるとありがたい。

## 6. 議題（3）公共交通の利用促進の取り組みについて（報告）

### ②プロモーション活動（アル・プラザ城陽）について

【都市政策課 的場係長による説明】

【質疑応答】

<委員の質疑、意見 = ①②・・・>

<市や他の委員の回答 = ■ >

<会長による補足等 = (会長) >

会長

①就職相談は、1人來られて採用されたのか。その後どうなったのか。

委員

■残念ながら、相談のみで採用には至らなかった。

(会長)

1回で就職に結びつくことはないにしろ、このようにブースを出しておくことによって、相談してみようかなと関心を持ってもらうことが非常に大事なことになるので、是非このような機会にPRしていただきたい。バスドライバーは、年収が低く長時間労働で休みもなく不規則勤務であり、何かあった時はとても責任が重い、よってドライバーにはなりたくない、というネガティブキャンペーンが多いように感じるので、むしろやりがいのある仕事であり、しっかりした労務体系に基づき、万一事故があった時にも対応できる仕組みがあるというポジティブな紹介をより一層行っていただけるとありがたい。

副会長

②おおよそ地域公共交通会議という、その自治体のことだけを考えている場合が多いが、連携して実施されているのは本当に素晴らしく、今後も進めるべきだと思う。今回、宇治田原町と連携して実施された趣旨としては、一般路線バスの利用促進という観点があると思うので、イベント実施時に宇治田原町の方が一般路線バスを利用してどれほど来られたか分からないが、例えば、宇治田原町から来るルートとして、一般路線バスからJRや青谷方面乗合タクシーへの乗り継ぎ連携が可能であるなら、そういう発信も今後検討していただければ良いのではないかと考える。

委員

■Googleなどでアル・プラザ城陽までのルート検索をした際に、路線バスや城陽さんさんバスの路線が出てくるようにしているので、それら手段を利用してお越しいただければと考える。

(会長)

検索して来てもらった方に景品をプレゼントするなどしてはどうか。口で「利用しましょう」と何度言っても、なかなか実体験には結びつかない。このような良い機会です。利用する体験をしてもらいたい。今週末に開催されるが、よろしく願います。

委員

③バス運転手不足が深刻になってきていることを受け、行政としてもバス業界とタッグを組んで、京都運輸支局の施設を使用して魅力発信等のイベントを各事業者の協力を得ながら行っているが、そのようなイベントは、そもそもバスに何らかの関心のある方には来ていただけるが、関心のない方はなかなか来場しにくいと思う。アル・プラザ城陽などの大型商業施設で開催されると、イベント目的ではなく買い物目的で来られた方が、「こんなことやってるんだ」と関心を寄せてもらえるなど、横の広がりが期待できる取り組みなので、是非、可能な限り実施していただければありがたい。

<休憩>

## 7. 議題（4）青谷方面乗合タクシーの運行計画変更について（報告）

【都市政策課 山本課長補佐による説明】

【質疑応答】

<委員の質疑、意見 = ①②・・・>

<市や他の委員の回答 = ■>

<会長による補足等 = (会長)>

副会長

①資料4 ページ「5. 運行計画変更の内容」の記載について、地元の方は既にご存知だと思うが、「土日祝（祝日が火曜、木曜の場合）」と書くと、土日も運行しているような印象を文言から受けてしまい誤解を招かないか。火曜、木曜が祝日の場合は運行されるということなので、「土日」という文言があると、事実と違うといった声が上がってくるのではないかと気になった。

(会長)

記載は工夫が必要になる。「土日」の文言を削除するか、土日は基本運行していない旨の文言を入れるか、検討していただきたい。

会長

②事務局への確認になるが、地域の方には事前に話をされて、納得されたという感触をいただいているということで良いか。

■地域の方に対して、変更の内容はまだお伝えしていない。変更することとなれば、事前に自治会回覧や市HP、停留所標柱への掲出という形で周知する予定である。

会長

③継続していくためにはコストを抑えることも大事であるが、変更の内容を利用者の方々が理解してくれないと、これは実現しない。元々、地域住民の強い要望で運行が始まったものなので、変更することに対して、住民の気持ちと違うという話になっては良くない。資料4 ページに「協議が調い次第」とあるが、協議が調うという意味は、一つは協議会で協議が調うということではあるが、地域住民にも確認した上で、運行

計画変更について運輸局に申請していただいたほうが良いのではないかと、い  
かがか。

■ 1月1日～3日の運行変更が適用されるのは約1年後となり、時間的には余裕がある  
ので、地域住民への確認については検討させていただきたいと考える。

(会長)

京都運輸支局とも相談いただき、地域の方とも協議を調べていただくということで  
ご理解いただきたい。

委員

■届出の際には、城陽市から話を聞いて受付させていただく。

副会長

④今後、地元の話がされることなので、一つは、資料3ページに2.7人/便の  
基準を満たすための人数が示されているが、お正月の期間は非常に少ない方しか利用  
されていないという事実を伝えるとともに、その分を補おうとすると、その前後、あ  
るいは他の期間でたくさんご利用いただかないといけないこと、もう一つは、きっと  
顔が見える関係になっていると思うので、普段お世話になっているタクシー運転手に  
お正月くらいは休みを取る機会を持っていただければということ、そういった点を伝  
えていただければ良いと考える。

(会長)

適切なアドバイスをいただいた。利用状況を見ると、1月1日～3日を運行日から  
除外するという変更については問題ないと思うが、地域住民とも話をした上で合意を  
得ることを前提とし、この場では協議が調ったということにさせていただきたいが、  
よろしいか。協議が調ったということについて、委員の皆さんの拍手で確認させてい  
ただきたい。

<全員拍手>

ご協力ありがとうございます。

## 8. 議題（5）地域公共交通計画の策定期間について（報告）

【都市政策課 的場係長による説明】

【質疑応答】

<委員の質疑、意見 = ①②・・・ >

<市や他の委員の回答 = ■ >

<会長による補足等 = (会長) >

(会長)

新名神のことは気にせず計画策定すべきという意見もあるかもしれない思ったが、特にそのようなこともなければ、状況を見ながら柔軟に、タイミングを逃さず時期を見定めて計画を策定していくということなので、その際は委員の皆さんにもご協力をお願いしたい。

## 9. 議題（6）その他

### ●交通事業者からの情報共有

【京都京阪バス株式会社 石川委員による説明】

一般路線バスの運行内容変更を3月22日（土）に予定している。2月26日（水）に公表するものである。内容としては、京阪電車をはじめ、近鉄、JR西日本のダイヤ改正に合わせ、関係する鉄道駅での接続調整を行うものである。加えて、深刻化するバス運転手不足への対応として、安定的な路線運行の維持を目的とし、一部路線の本数、発車時刻及び運行系統の見直しを行う。城陽市域に係る路線については大きな影響はないが、路線全体として平日25便程度（全体の約3.5%）の減便を行う。土休日は、逆に18便程度の増便を行う。収支構造については、路線バスの営業にあたって黒字経営というものはほぼない。ダイヤを色々と試行錯誤し運行支援もいただきながら、やっと9割ほどが限界で、残りの1割は高速バスやリムジンバス、空港バス、観光バスなどで収支を補っている状況である。弊社は高速バスがないので、観光バスでなんとか補っている。運転手不足の中、観光バスの稼働もほぼ0となっており、最低賃金の上昇もあって、より経営は苦しく厳しい状況となっている。今回のダイヤ変更については、一時、事業を基幹路線に注力して維持していくという判断によるものである。引き続き、運転手確保に向けて全力を尽くすところではあるが、今後も減り続けるようであれば、4両で運行している城陽さんさんバスについてもいつか厳し

くなるかもしれない。そうならないよう、各種イベント等を実施しながら確保していきたいと考えている。

(会長)

非常に厳しい状況ということで、いきなり減便や廃線にするのではなく、少し余裕を持って早めに、まずは行政と情報交換を行い、そしてこのような場で議論する時間を設けて対応策を考えることも大事だと思うので、時間的な余裕を作っていただけようをお願いしたい。京都京阪バスもそうであるが、現在どこも厳しい状況となっており、来月・半年後に減便・廃線という話をされても対応策を考える余裕が全くない。早めに情報提供をいただくとともに、減便・廃線により直接影響を受ける利用者にとってできるだけ影響が少なくなるような仕組みを考えることが重要であり、そういった内容が今後の地域公共交通会議でも議題になると思う。何をすべきかといった情報も運輸支局に蓄積があると思うので、あらかじめ相談をするなど、スムーズにいく対応策を検討できれば良いと考える。

【一般社団法人京都府タクシー協会 大江委員による説明】

おそらく5月か6月あたりにタクシーの運賃が改定される。労働者確保のために運賃を上げるということで、現在、審議されているところであって決定ではないが、報告しておく。

会長

①運賃はどのように上がるのか。

委員

■今審議中であるが、約5%から10%の範囲で上がるのではないかとと思われる。現在、初乗り運賃が1km500円のところ、0.9km500円というイメージで、あとは事後が少しずつ変わるのではないと思う。

会長

②この辺りは、ライドシェアはないのか。

委員

■エリア的には京都市域地区なので、やろうと思えばできるが、なり手がいるかどうかである。

(会長)

タクシーにおいても、色々と工夫されて頑張っておられるが、運賃改定せざるを得ない状況ということである。

委員

③先ほどのバスの減便について、実際、本当に色々なところで同様の問題が起きており、私自身も各地の地域公共交通会議に出席した際に、そういった話ばかりで暗い気持ちになる。そこで、早めに考えてなんとか代替手段を講じるというのは基本的に必要ではあるが、一方で人手不足という問題はバス会社だけに限らず、色々なところで顕在化しているので、交通手段を確保したくてもやりようがないという部分も多く出てきている。時間があるうちに考えておくというのも大事だが、代替手段を確保できなかった場合に、無いなら無いなりに移動のあり方を考え、生活のリズムをそちらに合わせるなど、受け入れというのも一定必要になる場面がこれから出てくるのではないかと思うので、地域住民の方にもその辺りの意識を持っていただければと思う。

#### ●会議録等の公開について

- ・ 会議録を市が作成し、各委員に承認をいただいた上で、配付資料とともに市ホームページに掲載することを確認。

## 10. 閉会